

事務事業名	南信濃中山間地域振興事業(木沢モデル)				会計	一般会計					
H27担当課等名	ムトスまちづくり推進課		H27係等名	南信濃自治振興センター		事業種別	政策	開始	22	終了	27
基本計画上の位置づけ	政策	8	山・里・街の魅力を高め、交流と連携によるグローバルなまちづくり								
	施策	85	中山間地域振興の推進								
目的	対象(誰・何を)	木沢地区				対象指標	指標名及び単位			26年度数値	
	意図(どういう状態にするか)	①木沢地区の交流人口を増やす ②南信濃地区全体の交流人口を増やす					木沢地区自治会数			8	
	向上させたい上位施策の成果指標	自主的な地域づくりの活動回数(まちづくり委員会主催による活動)					木沢地区人口(～21年度市年齢別人口統計表 4月1日現在)			223	
目標	種別	指標名及び単位				26年度計画	26年度実績	27年度計画	28年度見込み	備考(指標変更など)	
	成果指標	木沢地区交流人口(人)*算定根拠 旧木沢小学校見学者数				4700	4270	4800	5000		
	成果指標	南信濃交流人口(人)*算定根拠 かぐらの湯入り込み客数				78000	66725	79000	80000		
	定性目標										
事業概要	<p>南信濃地区では、若年層を中心に人口減少が続く、過疎化の進行と少子高齢化が急速に進んでおり、地域の担い手不足からコミュニティ活動を維持するのが難しくなっている。一方で、南アルプスの山々や渓谷美、清流などの豊かな自然や国の重要無形民俗文化財指定の「遠山の霜月祭り」に代表される固有の伝統芸能や山国の日常の暮らしなどを元とした山国文化がこの地区には存在する。このような状況にあつて、南信濃地区では、「若者が住みたい、住み続けたい」と思う地域づくりを目指しており、地区の魅力を発信して多くの人に遠山郷に対する理解を深めていただくことにより、交流人口の増加を目指した活動を行っている。その中で、上村下栗地区とも連携して、上村、南信濃両地区を合わせた「遠山郷」の視点を重視しつつ、最も熱心に活動を行っているのが木沢地区であり、その取組は地区全体が手本としている。木沢地区の活動をモデル事業として支援し、交流人口を増加させることで、地区全体への波及効果を目指す。</p>										
26年度事業内容	事業内容					名称			活動指標		
	<p>1 交流人口増加のための取り組み (1) 浜井場小学校児童との交流 (2) 南アルプス開山式 (3) 遠山郷マラニック大会 (4) 遠山霜月祭り交流 (5) 遠山藤原学校講演 (6) 旧木沢小学校来訪者 2 活動拠点の整備 (1) 旧木沢小学校交流拠点機能強化(給食室改修)</p>					<p>1 (1) 受入人数 (2) 参加者数 (3) 参加者数 (4) 参加者数 (5) 参加者数 (6) 来訪者数 2 (1) 施設改修費</p>			<p>1 (1) 120人 (2) 40人 (3) 230人 (4) 80人 (5) 800人 (6) 3,000人 2 (1) 3,100千円</p>		
事業コスト		25年度決算額	26年度予算額	26年度決算額	27年度予算額	特定財源内訳、補足					
事業費計(千円)①		0	3,100	3,100	0	(県)市町村合併特例交付金(10/10) (そ)繰入金					
国庫支出金											
県支出金			3,000	3,000							
起債											
その他				80							
一般財源			100	20							
人件費計(千円)②		1,788		1,788							
正規職員所要時間		500		500							
臨時職員所要時間											
総事業費①+②		1,788	3,100	4,888	0						
事業内容・目標達成状況の振り返り	飯田市南信濃都市山村交流促進施設(旧木沢小学校)を拠点施設として「木沢地区活性化推進協議会」が都市住民との交流の場として活動してきた。										
改革改善の考え方	①問題点	拠点施設である飯田市南信濃都市山村交流促進施設(旧木沢小学校)が、木造で老朽化して、地震など災害時の地域住民及び来訪者等の安全性の確保が必要である。									
	②改革提案	活動を中心的に行っている「木沢地区活性化推進協議会」をはじめとする地区住民と連携するなかで、安全性を確保するとともに必要な施設改修等を支援する。									